

## The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第4号

令和4年7月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

7月になりました。これから8月末までに将来のことをしっかり考えてほしいと思い、2040年「仕事とキャリア」年表 植田 統著 三笠書房の「年表」と「はじめに」の一部を紹介します。18年後、皆さんは何歳ですか？どのような生活を送っていますか？

「将来を考えながら、現在を丁寧に大切に生きる」ことが未来を切り開いていくことになるのです。

「年表」 今の日本から予測できる未来

2025年 「大リストラ」開始

団塊ジュニアが50代に 負担増大⇒人件費削減 大リストラ

2027年 「学び直し」が過熱

世界で失われる雇用8500万人（事務職、工場労働者）

世界で新たに生まれる雇用9700万人（データアナリスト、AI技術者）

⇒リスキング 学び直しが超重要

2029年 若手社員の「転職」が激増

外資系企業の場合

今の給与⇒転職後の給与（10～20%アップ）

2031年 サラリーマン「超格差社会」に

2033年 社長は「外国人」「女性」の時代

2037年 「若手社員」が大量流出 日本企業⇒外資系企業

2039年 ついに「年金崩壊」 年金財政悪化⇒生涯現役時代に！

2041年 「スタートアップ企業」が急増

2043年 「サラリーマン消滅」

メンバーシップ型雇用 終身雇用 年功序列

⇒日本株式会社活力低下⇒サラリーマン消滅

↓

**ジョブ型雇用** 自分に投資 自分マーケティング戦略

自分株式会社 **商品は自分**

「はじめに」

新卒社員は、入社した会社に愛想をつかし3年で30%が去っています。終身雇用が生き残っているのは、東証一部上場企業の中の数百社に留まっています。それ以外の会社では、転職は当たり前となり、すでに終身雇用は崩壊しています。そのうえ、その数百社に入る富士通、日立製作所、KDDI等の日本を代表する大企業においてすら、メンバーシップ型雇用を廃止し、「ジョブ型雇用」を導入しようという動きが活発になってきています。

**ジョブ型雇用**では、職務記述書が用いられます。そこには、そのジョブ（職務）で行なう仕事の内容が明確に定義され、そのジョブに就くために必要な学歴や職歴も記述されています。

**会社は、そのジョブに合う人を採用し、その人の能力に応じて給与を決めます。**日本のように年齢で給与を決めるのではないのです。若くても高いスキルを持っていれば、高い地位に就けます。高い地位に就けば、高い給与がもらえます。

**ジョブ型雇用を採用する会社は、専門家の集団となっていますから、当然、生産性が高く、競争力も高くなります。これが、日本企業の雇用がこれから変わっていく方向性です。**

こうした激動の時代を生きていくために、私たちは何をすればいいのでしょうか。しっかりとキャリア・ビジョンを持ち、それに向かって日々懸命に努力していくことが必須です。特に重要なことは、「サラリーマン」マインドから、「プロフェッショナル」マインドへの切り替えでしょう。

一番でなくてもいいので、「**あなたの魅力って何ですか。あなたは何が得意で、何ができますか。あなたのプロフェッショナルなところは何ですか。**」と聞かれたときに、答えられるものを身につけていきましょう。自分にできることを一つでもいいので、持てるように努力して行ってください。

現在どんな仕事があって、それがどのように変化していくのか、これから発展していく職種は何かなど、時間の取れる時に新書等を読んで、しっかり考えましょう。

**みなさんは新しい何かを創ることができる時代に生きているのです。楽ではありませんが、可能性が大きく、楽しみではありませんか。ワクワク感をもって生きていきましょう。それが個人の幸せ、日本の発展につながっていくのではないのでしょうか。**

つばさ総合高校にはワクワク感を持った生徒に入学してほしいと思っています。

日本の未来を創っていきましょう！

Life isn't about finding yourself. Life is about creating yourself.